

## 第1回福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会（議事録）

日 時：平成21年6月22日（月）14:00～15:15

場 所：吉塚合同庁舎 特5会議室（7階）

出席者：○委員（17名）

○オブザーバー（3名）

○平田保健医療介護部長

○事務局（田先薬務課長、池田課長技術補佐、上田監視係長、市村生産指導係長、楠元技術主査、三嶋主任技師）

○傍聴者

### 議 題

- (1)今年度の事業の方向性について
- (2)モデル市町村における薬剤費削減可能額通知事業について
- (3)平成20年度下半期ジェネリック医薬品流通実態調査の結果について
- (4)平成20年度モデル病院における採用実態調査について
- (5)溶出試験について
- (6)協議会より医療関係者に提供する情報について

### 司会

定刻となりましたので、ただ今から「平成21年度第1回福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会」を開催します。

私は司会を務めさせていただきます薬務課の上田と申します。よろしく申し上げます。

なお、本日は木瀬委員、渡辺委員が、業務のためご欠席との報告を頂いております。

最初に、保健医療介護部長の平田より挨拶がございます。

### 保健医療介護部長

保健医療介護部の平田でございます。

平成21年度第1回福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会の開催にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては、平素から本県のジェネリック使用促進事業につきまして、ご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。また、本日は、御多忙の中、御出席を賜り、重ねてお礼申し上げます。

本協議会は、ジェネリック医薬品に係る本県での中心的な位置付けとして、平成19年度に設置し、皆様の意見を伺いながら、ジェネリック医薬品の品質評価の実施を始め、採用マニュアル、啓発ポスターを作成したほか、昨年度は医療関係者を対象とした研修会を開催するなど、種々の取り組みを行って参りました。そのおかげもありまして、昨年度の数量シェアで、およそ25%まで増加しておりまして、当初の我々の想定を上回るペースで増加しているのが現状でございます。

しかしながら、欧米と比較しましても、まだまだ低い状態です。この問題については、がむしゃらに突き進むと言うより、皆様のご意見を伺いながら、一つずつ丁寧に取り組みを進めるのが肝要であると考えております。

本年度は、今までの取り組みに併せ、地域での研修会の実施やモデル市町村における薬剤費削減可能額の通知事業などを新たに実施する予定でございます。

委員の皆様には、引き続き、どのようにしたら医療関係者や県民が安心してジェネリック医薬品を利用することができるか、その問題点、課題等について忌憚のない御意見をいただくとともに、その促進策について御検討いただきたいと思いますと考えております。

最後に、本県では、今後も本協議会を中心として、ジェネリック医薬品促進事業を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしく御協力下さるようお願いいたします。

司会

今回、委員の交代がありましたので、ご紹介させていただきます。ご紹介されました委員の先生方におかれましては、一言ご挨拶の方、お願いします。

独立行政法人国立病院機構 九州医療センター 白木委員に代わりまして、石橋誠委員でございます。

石橋委員（九州医療センター）

九州医療センターの石橋です。九州がんセンターより異動して参りました。当院でも、ジェネリック医薬品の導入進めておりまして、この会に参加しお役に立ちたいと考えております。よろしくお願い致します。

司会

特定医療法人 原土井病院 野田委員に代わりまして、林信至委員でございます。

林委員（原土井病院）

5月1日付けで、異動して参りました林です。これまで、あまりジェネリック医薬品の導入には積極的ではなかったのですが、当院はモデル病院ということもあり、今後は、ジェネリック医薬品の導入に積極的に取り組んで参りたいと考えております。よろしくお願い致します。

司会

社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院 井上委員に代わりまして、橋本和代委員でございます。

橋本委員（聖マリア病院）

聖マリア病院の橋本です。井上薬局長の後任として、この協議会に参加させていただくことになりました。当院では、院外処方も、まだ実施してはおりませんが、ジェネリック医薬品についても頑張っていきたいと思っています。よろしくお願い致します。

司会

北九州市立医療センター 森口委員に代わりまして、山田真貴委員でございます。

山田委員（北九州市立医療センター）

4月1日より、北九州市立医療センターの薬剤部長に就任しました山田です。少しでも、この協議会のお役に立てればと考えております。よろしくお願い致します。

司会

なお、事務局の方でも、人事異動がありましたので、ご紹介いたします。  
薬務課長の田先でございます。

薬務課長

田先でございます。どうぞよろしくお願い致します。

司会

生産指導係長の市村でございます

市村生産指導係長

市村でございます。よろしくお願いいたします。

司会

今年度、本協議会を担当します主任技師の三嶋でございます。

三嶋主任技師

三嶋でございます。よろしくお願いいたします。

司会

続きまして、配付資料のご説明を致します。本日、席上に、レジメ、委員名簿、席次表、配付資料1から6及びモデル病院採用ジェネリック医薬品リストをお配りしております。資料に不足等がある方は、事務局にお声かけください。

それでは、以後の進行については、要綱に基づき、小野会長に議長をお願いします。

よろしくお願いいたします。

小野会長（福岡大学）

小野でございます。本日は、お暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。

このプロジェクトは、3年計画でございまして、本年は、最後の年になります。それなりの進展もあるのですが、やはり欧米諸国に較べますと、その歩みが遅いという気がしております。これは、ジェネリック医薬品に関する課題が、山積しているためと思っておりますが、本協議会は、都道府県レベルでは、日本で最初に立ち上がったものでございますので、積極的にこれらの課題に取り組んでいけたらと考えております。皆さんの積極的な協議をよろしくお願いいたします。

この6月に、厚生労働省の方から通知がありまして、所謂、用途特許について、物質特許が切れた後は、用途特許が残っていても、ジェネリック医薬品を承認するとの取り扱いを示したところです。臨床現場では、それらを踏まえて、しっかり対応を進めていかなければならないということでございます。

本日も、いろいろな課題について、協議する予定ですので、皆さんよろしくお願いいたします。

## 議題1：今年度の事業の方向性について

小野会長（福岡大学）

それでは、まず、議題1「今年度の事業の方向性について」、事務局から報告をお願いします。

事務局

今年度、実施予定の事業については、前回の協議会において、その概略をご説明したところです。今回は、今後の方向性について、改めてご報告申し上げます。資料1をご覧ください。

今年度の事業として、大きく分けて、6つの項目を考えております。

まず、1の福岡県ジェネリック医薬品使用促進協議会についてです。

本協議会については、使用促進に係る問題点、課題を検討し、県レベルで実施可能な方策を協議して頂いているところですが、今年度で設置から3年が経過いたします。そこで、一つの区切りと致しまして、今年度末にジェネリック医薬品使用促進事業に関して中間報告書を作成して頂くことを考えております。次回の協議会にて、まず報告書の骨子をお示しした上で、第3回の協議会にて案をお示し

して、ご協議頂きたいと考えております。

2の研修事業については、医療関係者のジェネリック医薬品に対する理解を深める目的で実施しており、今年度も引き続き実施予定です。それと併せて、今年度は、3にあります「地域での使用促進」の目的で、県内4ブロックで地域診療所、薬局を対象に研修会を実施予定にしております。

3(2)の「モデル市町村における薬剤費削減可能額通知事業」については、後ほど、詳細をご報告致します。

4のジェネリック医薬品普及状況調査等については、これまでもモデル病院や県内卸業等に皆様にご協力いただいているところですが、今年度も引き続き実施したいと考えております。

5の溶出試験についてと、6の協議会より医療関係者に発信する情報については、後ほど、先生方にご協議いただきたいと考えております。

以上です。

小野会長（福岡大学）

ただいまのご報告につきまして、ご質問、ご意見等ございませんか。

特に無いようでしたら、今年度の事業予定については、皆様、御承知いただいたということで、次の議題に進みます。

## **議題2：モデル市町村における薬剤費削減可能額の通知事業の進捗状況について**

小野会長（福岡大学）

それでは、続きまして議題2「モデル市町村における薬剤費削減可能額の通知事業の進捗状況について」、事務局から報告をお願いします。

事務局

それでは、議題2「モデル市町村における薬剤費削減可能額通知事業について」ご説明いたします。資料2をご覧ください。

内容については、先の協議会にて、概略をご説明させていただきましたとおり、これまで健保で効果が認められている個人あての通知事業を、県の財政負担のある国保を対象として実施するものです。

通知内容は、先発医薬品を長期間服用している等、ジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費削減効果が高いと思われる被保険者に対し、ジェネリック医薬品への切り替えによって、どの程度、自己負担が抑制できるのかを知らせるものとなります。

今回の事業では、対象の薬剤を医師の処方に基づき、調剤薬局から交付された薬剤として、対象レセプトも、モデル市町村を保険者とする国民健康保険の被保険者に係る薬局からのレセプトとすることを考えております。

通知内容といたしましては、私どもがこれまで作成した、リーフレット等の資料を参考に、ジェネリック医薬品についての啓発に係る情報を盛り込むこと、また、調剤された薬剤の情報とともに、ジェネリック医薬品に切り替えた場合に削減可能と推定できる割合を記載する予定にしております。なお、実施する市町村として、久留米市において作業を進めております。

今後、さらに通知の文面等について検討し、今年の夏以降に第1回の通知を発出できるよう、準備を進めているところでございます。

以上です。

小野会長（福岡大学）

御意見、御質問があればお願いします。これは、モデル市町村への助成とありますが、具体的など

ころでは、県は、どういったことをするのですか。

薬務課長

この事業につきましては、モデル市町村を久留米市の方へお願いしており、県は補助金を出す形を考えております。実施主体は、あくまで久留米市ということになります。今後、久留米地区の医師会、薬剤師会と調整を進めて頂き、通知の発出を行う予定にしております。

石橋委員（九州医療センター）

モデル市町村として、久留米市を選ばれた理由というのは、どういったものなのでしょうか？

事務局

事務局よりお答えします。モデル市町村として、久留米市を選定した理由についてですが、この通知事業については、効果を確認するために、ある程度の事例数が必要で、また、ジェネリック医薬品を積極的に使用している中核病院が必要です。久留米市の場合は、国保被保険者数が、約8万5千人で、本協議会のモデル病院である久留米大学病院、聖マリア病院があることなどから、モデル市町村として事業のご協力を依頼したところです。

石橋委員（九州医療センター）

今回の事業は、調剤薬局からのレセプトが対象であるとのことですが、久留米地区の調剤薬局の受け皿としての状況については、どのような状況なのでしょうか。

薬務課長

久留米市は、医薬分業も進んでおりますし、久留米大学病院は院外処方を実施されています。また、過去に様々なモデル事業を経験しているという点があります。そういった点では、久留米市の薬剤師会は、大変活発に活動しており、組織としても本事業の受け皿としても十分な状況でございますので、久留米市にモデル市町村として事業のご協力を依頼したところです。

中井先生、一言お願いできますでしょうか。

中井委員（福岡県薬剤師会）

この事業については、薬務課の方から、ご説明を頂いております。

今後は、久留米市の医師会の先生方のご了承を得て、事業を進めていくことになろうかと考えています。

ジェネリック医薬品を使用促進することで、薬剤費を約230億円削減するということは、当会の会長の小田の方からも指示が出ているところですので、ご協力させていただきたいと考えております。

小野会長（福岡大学）

その他、御意見等ありませんでしょうか。

なければ、皆様、御承知いただいたということで、次の議題に進みます。

### **議題3：平成20年度下半期ジェネリック医薬品流通実態調査の結果について**

小野会長（福岡大学）

続きまして、議題3、福岡県ジェネリック医薬品流通実態調査の結果について、事務局より報告をお願いします。

事務局

それでは、議題3「福岡県ジェネリック医薬品流通実態調査の結果について」ご説明いたします。資料3を御覧ください。

これまでも、県内卸等にご協力いただいて、本調査を行ってきており、平成20年度上半期のジェネリック医薬品の数量シェアについては、「23.7%」とご報告していたところです。今回、平成20年度下半期、及び通年の数値が出ましたのでご報告します。

4の結果の欄をご覧ください。

後発医薬品の数量シェアについては、平成20年度上半期の23.7%に対して、下半期は「26.8%」、通年で「24.9%」となりました。

金額シェアについては、平成20年度上半期の8.4%に対して、下半期は「11.4%」、通年で「9.9%」となりました。

いずれも、平成19年度の調査から、徐々にではありますが、増加傾向にあります。

今後とも、目標の数量シェア30%に向けて、必要な対策を講じていきたいと存じます。

以上です。

小野会長（福岡大学）

御意見、御質問があればお願いします。これは、全国の成績はまだ出ていないのですよね。

事務局

はい、まだ発表されていません。

小野会長（福岡大学）

流通実態調査ということですが、流通関係の方のご意見はありませんでしょうか。

薬務課長

新井先生、なにかございませんでしょうか。

新井委員（ジェネリック医薬品販社協会）

この5月に、また新たなジェネリック医薬品が、薬価収載されたこともありまして、徐々にではありますが、数量が増えているのは感じています。

患者さんの方から、ジェネリック医薬品を希望することについては、まだ、地域によって差があるのかなという感じを受けています。また、患者さんが直接、お医者さんにジェネリックを希望するというよりは、薬局の薬剤師さんをお願いする方が、話しやすいと感じているようです。そういった点では、今後、薬剤師の方が、もっと積極的に患者さんにジェネリック医薬品をお勧めいただくと良いのかなと考えております。

小野会長（福岡大学）

薬剤師がもっと頑張れというのは、今、全国的にも言われていることですね。新井先生も仰るとおり、もう少し、薬局の薬剤師の頑張りが必要なのでしょうか。

全体的にも、さらに頑張って使用促進を進めていかないといけませんね。

それでは、本件については、皆様、御承知いただいたということで、次の議題に進みます。

#### 議題4：平成20年度モデル病院における採用実態調査の結果について

小野会長（福岡大学）

続きまして、議題4「平成20年度モデル病院における採用実態調査の結果について」、事務局から報告をお願いします。

事務局

それでは、議題4「平成20年度モデル病院における採用実態調査の結果について」ご報告いたします。資料4をご覧ください。

本調査は、ジェネリック医薬品を積極的に採用している病院における薬剤費削減効果、汎用されているジェネリック医薬品等の把握を目的とし、調査施設として、後発医薬品を積極的に採用している本協議会のモデル病院を対象としたもので、昨年度4月から9月に購入した医薬品を品目毎に集計したものです。

結果として、4～9月の半年間で、12病院あるモデル病院の合計として、ジェネリック医薬品への切り替えにより、薬剤費の削減額が約5億円に上ることが判りました。ジェネリック医薬品の数量シェアは、「26.5%」であり、先ほどご報告した流通実態調査の上半期の数量シェアが23.7%であったことから、それを上回っております。

また、お手元に「モデル病院採用ジェネリック医薬品リスト」を配布しております。これは、本調査を基に作成したもので、現在、県薬剤師会を通じて、会員の皆様に配布をお願いしたところです。今後、医療機関の方へも配布の方を考えております。

以上です。

小野会長（福岡大学）

御意見、御質問があればお願いします。

目標は、数量シェアで30%ですが、今回のモデル病院さんの数値も今後伸びていくものなのでしょうか。

林医院（原土井病院）

最近では、抗がん剤の注射のジェネリック医薬品も増えています。

やはり、病院の経営を考えた場合には、注射剤から切り替えが進むでしょうし、抗がん剤は高価なこともあり、この分野の切り替えも進むでしょう。そういう意味でも、数値は伸びるものと思います。

小野会長（福岡大学）

ありがとうございました。

他に無いようでしたら、本件については、皆様、御承知いただいたということで、次の議題に進みます。

## 議題5：溶出試験について

小野会長（福岡大学）

それでは、続きまして議題5「溶出試験について」、事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、議題5「溶出試験について」ご説明いたします。資料5をご覧ください。

ジェネリック医薬品の品質確保のための溶出試験については、その使用促進の一環として実施して参りました。これは、長い歴史の中で、後発医薬品への不信感があるので、これを払拭するためには、第三者として、県独自に品質を確認するステップは必要との協議会でのご判断をいただいたことで

す。

平成19年以降、モデル病院からの希望をもとに、候補の品目を選定し、平成19年度は、14成分、16製剤の試験を実施し、全て適合でございました。平成20年度は、一つの成分で多数の製剤が発売されているアムロジピンについても試験を実施し、34製剤、全ての製剤が適合という結果を得ております。

国でも平成20年度よりジェネリック医薬品品質情報検討会を開催し、ジェネリック医薬品の品質等の問題を指摘する文献の収集、評価の実施や純度試験を実施しており、品質再評価指定を受けた品目に対する実生産規模での溶出プロファイルの確認とその結果の情報提供も行っていることなどから、平成20年度第4回の協議会において、今後、溶出試験の実施を行わない旨、お諮りしたところでございます。

その席で、「平成21年度は、先発品名はクラビットのレボフロキサシンなどの大型ジェネリック医薬品が発売されることなどから、とりあえず試験を実施する方向で」とのご結論をいただいたところです。

事務局において、再度、検討を行いました。レボフロキサシンについては、5月15日付けで23社31品目のジェネリック医薬品が薬価収載された一方で、先発品であるクラビットについては、世界120カ国以上の国で承認されている標準的用法・用量である1日1回500mg投与のための製剤、250mg錠、500mg錠が、本年4月22日に承認されており、今後は、こちらの方が臨床現場で汎用される可能性が高いと思われまます。

前回の協議会から、先発品を含めて、少し状況が変わってまいった面もありますので、このままレボフロキサシンの溶出試験を実施するのもも含めまして、先生方のご意見を賜りたく存じます。

以上です。

小野会長（福岡大学）

御意見、御質問があればお願いします。

石橋委員（九州医療センター）

最近、PK-PD理論も定着してきています。そういった点では、今後、今回承認された高用量の使い方がメジャーになっていくかと考えます。

小野会長（福岡大学）

それは、耐性菌の発生抑制の観点から有効ということですか。

石橋委員（九州医療センター）

そうです。

竹本委員（飯塚病院）

論文等で発表されてきたこともあって、レボフロキサシンの高用量投与の話は知っていましたが、有効だと思います。

既存の製剤が不必要になるかと言えば、それはちょっとわかりませんが。

小野会長（福岡大学）

この用法・用量のジェネリック医薬品が出てくるのは、もうしばらく時間がかかろうかと思えます。そういった点では、やはり溶出試験を実施した方がよいのですかね。実施のための予算は取っていないということですか。

## 事務局

前回の協議会でご説明させていただきましたが、溶出試験そのものでは、予算措置をしていません。県が支払う費用といえば、先発品を購入する時くらいで、あとは、ジェネリック医薬品メーカーに負担をお願いしています。ただ、実施するとなれば、県のスタッフがそのことをメーカーさんや販社協さんをお願いして、調整することが必要になってきますので、その負担は結構あります。

## 中井委員（福岡県薬剤師会）

クラビットは、県内で金額ベースでは、どれくらい出ているものなのですか。福岡県内で、特によく出ているということであれば、溶出試験をやる意義はあるのではないかと思います。

## 事務局

金額ベースでは、データを持ち合わせておりません。一方で、レボフロキサシンそのものは、抗生剤の中でも汎用されておりますので、決して小さくないシェアがあるかとは考えております。

## 岩田委員（北九州中央病院）

これまで県独自に溶出試験を実施してきて、結果は全て適合でした。現在のジェネリックメーカーの製剤技術は進歩してきて、品質については、かなり信頼していいのではないかと考えています。そういった点で、これ以上、溶出試験を実施しても、不適が出てくるということは、そんなに無いのかと考えています。

そのため、内服薬でも、口腔内崩壊錠やホクナリンテープなどの外用剤について、試験をしてはどうかと思えます。これは、雑誌などでも、同等性について懸念されていたり、また薬剤師の研修会などでも同様の声を聞いたりしていますので。

## 小野会長（福岡大学）

なるほどですね。今後の試験のあり方について、大変ありがたい意見です。今回のレボフロキサシンについて、どうするか他にご意見はありませんか。

## 赤松委員（九州厚生年金病院）

クラビットはどの診療科においても、汎用されている品目です。

溶出試験の結果が全て「適」ならば、病院において、ジェネリック医薬品を導入する際に、医師を説得する材料になるかと思えますので、是非、やっていただきたいと思えます。

## 小野会長（福岡大学）

私の個人的な意見ですけれども、やらないよりはやった方が良いと言う訳ではないのですけれども、意見でありましたように、ジェネリック医薬品の製剤技術、品質が大丈夫であるということは、だいぶ周知されているとは思いますが、まだまだ品質への不安を訴える声があることも事実ですし、事務局の人は大変でしょうけど、できれば溶出試験を実施する方向で進めていただけたらと思えます。

## 薬務課長

ジェネリック医薬品の品質に対する評価について、まだまだ不安の声を聞きますし、また過去のイメージというものもあります。国の方で承認されていますので、溶出試験で不適がでることは、まず無いかとも考えられますが、このような不安を払拭するという意味で、第三者の立場で溶出試験を実施することに意義があるかと思えます。

協議会の先生方が、溶出試験をやるべきとのご意見であれば、事務局としては、汗をかくことに吝

かではありませんので、やる方向で進めさせて頂きたいと思います。

小野会長（福岡大学）

それでは、溶出試験については、対象をレボフロキサシンで実施するというので、お願いします。次の議題に進みます。

## 議題6：協議会より医療関係者へ提供する情報について

小野会長（福岡大学）

それでは、続きまして議題6「協議会より医療関係者へ提供する情報について」、事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは、議題6「協議会より医療関係者に発信する情報について」ご説明いたします。資料6をご覧ください。

これまでに、協議会から医療関係者への情報発信として、ジェネリック医薬品の使用促進のための環境整備の観点から、「福岡県ジェネリック医薬品採用マニュアル」「モデル病院採用ジェネリック医薬品リスト」を作成、配布しているところです。

今後、さらなる環境整備を進めるべく、広範なリストから一步踏み込んで、現在、汎用されているジェネリック医薬品のなかでも、積極的な採用によるメリットが大きいと思われる品目、薬効群等を絞り込み、それをリスト化し、発信してはどうかと考えており、本日は、その方法等について、ご協議頂きたく存じます。

リスト掲載への候補の品目については、一つは、モデル病院において、多数の病院が採用している品目、もう一つは、製剤設計の工夫による、苦味等の軽減、口腔内崩壊錠の設定、安定性の延長などが評価された品目等を考えております。

この製剤設計に基づくジェネリック医薬品の特徴の評価について、もう少し詳細にご説明させていただきます。「医療の質を維持しつつ、ジェネリック医薬品の使用促進の環境整備を図る」観点に立てば、先発医薬品より「優れている」点を持つジェネリック医薬品については、積極的に評価していく姿勢も必要ではないかと考えております。そのため、今回、製剤設計の工夫による、苦味等の軽減、口腔内崩壊錠の設定、安定性の延長などに着目し、該当するジェネリック医薬品を今年度作成予定のリストに掲載することを検討したいと考えております。

作業の流れについては、以下のとおりを案として考えております。

Step1として、モデル病院において採用されているジェネリック医薬品のうち、「採用マニュアル」で第二レベル、即ち任意項目である、製剤改良の項で「先発品より優れている」と評価される品目について、候補ジェネリック医薬品をモデル病院から選出します。

Step2として、協議会において、「キードラックなど医療上の必要性の高いもの」「複数のモデル病院で採用されているもの」「製剤上の工夫が特に優れているもの」などの観点から、検討するジェネリック医薬品を絞り込みます。

Step3として、予め定めた様式に沿って、モデル病院における評価について、分担して報告書を作成していただきます。

Step4では、その報告書について、協議会に、報告して頂きます。

最後のStep5で、今年度とりまとめるリストに掲載する流れでございます。

本日、ご協議頂きたいのは、協議会からの情報発信として、このように品目を絞り込んだ形で、ある程度汎用されているジェネリック医薬品を掲載することについて、また、製剤設計の工夫に着目し、リスト化の対象とすることについてご協議頂きたく存じます。

以上です。

小野会長（福岡大学）

御意見、御質問があればお願いします。

事務局

モデル病院の先生方に確認したいのですが、実際、製剤の特徴に着目して、実際に採用するという事は、どのくらいあることなのでしょう。

岩田委員（北九州中央病院）

例えば、高齢者に対して経管投与をする際などは、これまで、錠剤を粉砕していたのですが、それだと、結構な手間も掛かりますし、病棟でお薬に鑑別ができなくなるということもあって、今は簡易懸濁法（錠剤やカプセルを粉砕・開封せず、そのまま温湯に入れ崩壊懸濁させたあと経管投与する方法）で投与することが増えてきています。そのような場合、溶けやすい錠剤というのは、非常にありがたいので、採用するときなどは、その点に注目することがあります。

小野会長（福岡大学）

他にご意見はありませんか。

薬務課長

今回、このようなご提案をさせていただいているのは、我々の方でも採用マニュアルなどを配布させていただいていますが、医療機関や薬局において、なぜ、先発品からジェネリック医薬品にきりかえたのかを明確する評価システムのようなものを持っておいていただきたいという思いがあります。

ジェネリック医薬品の使用促進というのは、まずは薬剤費の削減という大命題があるわけですが、我々薬剤師のなかには、患者さんの立場にたった時に、経済理論だけで、何が何でもジェネリック医薬品に切り替えるというのではなく、切り替えることによって、お薬代以外に、なにがメリットとしてあるのか明確にしておきたいという思いがあります。

よろしくご検討の程をお願いします。

小野会長（福岡大学）

今、課長さんが言われたことに、私も全く同感です。なぜ、我々専門家がいるのかといえ、それは患者さんのためであるわけで、ジェネリック医薬品についても、しっかり患者さんにとってのメリットを説明できるようにならなければならないと思います。

そういった意味で、今回、ご提案いただいたリストについては、大変有効だと思います。

他にご意見はありませんか？それでは、本件については、ご提案の方向で、今後進めてください。本日の議題は以上ですが、全体を通してのご意見、ご質問はありませんか。

中井委員（福岡県薬剤師会）

議題2の通知事業の件なのですが、実施主体は、あくまで久留米市の方だと思うのですが、現在までの進捗状況について、教えていただけますか。

薬務課長

通知事業につきましては、県の医師会の方へ、ご相談させていただきました。内容について、いろいろ検討してまいりましたが、この内容ならばご協力すると言っておいておりますので、今後は、久留米地区、4つ医師会がありますので、久留米市とそれら地域の医師会との話し合いになるうか

と思っています。もちろん、我々もその席には同席させていただいて、ご説明させていただく予定にしております。

本事業は、あくまでモデル事業でございますので、このまま、一気に県内全域で実施するという訳ではなくて、まずはやらせていただく、そこで通知による効果を検証し、そして、なにが課題としてあるのかを十分に検討しまして、来年度以降の取り組みに繋げて行きたいと考えております。

中井委員（福岡県薬剤師会）

薬剤師向けには、この事業について、周知する機会を設けるおつもりですか。

薬務課長

なにせ、この事業は県内で初めてのことなので、通知を受け取った患者さんがびっくりするということは考えられます。そうすると、その患者さんは、まず、かかりつけの医師なり薬剤師なりに相談するかと思います。そこで、情報が十分でないと、医療現場での混乱が起こってしまいますため、そうならないよう、事前に研修会等を実施するなど、協力体制をしっかりとしたいと考えております。

小野会長（福岡大学）

他にございませんか。池田副会長、なにかありませんか。

池田副会長（福岡県医師会）

今日のお話でもありましたが、医療費削減だけを掲げて、ジェネリック医薬品の使用推進をしても上手くいかないと思います。むしろ、今、中医協の方でも議論されていると聞いていますが、先発医薬品の値段を特許期間終了後には、ジェネリック医薬品なみにまで大幅に下げるならば、使い慣れた薬剤を安く使えるわけで、その方が良いと思っています。

今回の協議会での話では、溶出試験について思っているのは、これはそもそも、ジェネリック医薬品の品質について、漠然というか、明確な根拠のないところで、不安感を持つ方が多いということで、それを払拭する意味でも、実施に踏み切ったというものです。これまで、実施してきた試験の結果は、全て適合するということですので、今後は、これらの結果を広く情報提供することを考えていただきたいと思います。

小野会長（福岡大学）

ありがとうございました。それでは、事務局へお返しします。

事務局

先生方におかれましては、長時間の御協議、ありがとうございました。

次回の協議会は、場所はここ、吉塚合同庁舎を考えておりますが、日程については、おって、調整いたしますので、よろしくお願ひします。

最後に薬務課長の方から、ご挨拶させていただきます。

薬務課長

皆様、お忙しい中、ありがとうございました。

この事業については、皆様からのご意見を頂かないことには、なかなか効果が上げられないものと考えております。今後ともよろしくご協力の程、お願ひ申し上げます。

以上をもちまして、平成21年度第1回協議会を終了させていただきます。